

米大統領の火邊談話

華府九月七日發電

E. H. 生譯

ラ・ブレンサ紙掲載

ルーズベルトが議會に提出したインフレーション防止案は、大統領の思惑通りにはゆかず、最も肝腎なる部分が骨抜きになつて幸くも議會を通過したことは、本記事事發表後に報道された外電によつて讀者諸君はすでに御承知のことと思ふ。本文の掲載は少し遅すぎた感があるが参考になる點多々あるに鑑み、こゝに掲載する所以である。

(一)

大統領ルーズベルトは定例爐邊談話において、七日夜、國飛行機隊を縦つて三千米の上空より目標物目掛けて急降下し、それが均衡を意味する敵の高角砲の弾幕と無數の敵の爆撃を敢行せる飛行隊を指した。百パーセントの均衡は、所謂「歐洲の戦場において獨逸の性能を粉粹せんがために準備してゐるのであり、且つ少くとも十二ヶ所ばかり襲撃し得る場所がある」と明示した。

ロシア軍の現状は正に危機瀕としてゐることを容認した。

大統領は「ロシアは戦争を繼續するだらうし、ロシア

の前にもロシアの荒野には又もや展開することだらう

といふてゐる」

大統領の談話中その大部分

は、インフレーションに対する政府の争闘に關係してゐる。

この意味において、本日この

重大問題解決上の或種の對策

を承認されることを議會に要

求めるメッセージを送つたと

が又もや展開することだらう

ことである。

以下大統領の談話要旨

は、インフレーションに対する

政府の争闘に關係してゐる。

これが本日の主要な

問題である。

全北米人がわが上陸艦隊の

行動に關するものだ。

最初の二日間は、ボーワーズ

は急降下爆撃機と操縦してゐ

た。敵の猛烈なる高角砲火を

冒して、ボーワーズ中尉は日

本の大砲艦を一撃撃破し、敵

の一艦を駆逐不能ならしめ

た。この母艦は開港なく沈没

した。この母艦は開港なく沈没

した。